

# マレーシアでの卒業生との交流

生命体工学研究科・MSSC 特任准教授 安藤 義人



生命体工学研究科・マレーシア拠点MSSC副ディレクターの安藤義人と申します。前職では、本学のエコタウン実証研究センターの准教授として、本学の重点協定校であるマレーシアプトラ大学（UPM）との共同研究に多く関わってきました。国立大学初の海外拠点であるMSSCの立ち上げ以前から現MSSCディレクターの白井義人教授と共にマレーシアからの留学生の受入れや国際共同研究の促進を行っています。2017年9月よりMSSC副ディレクターとして、マレーシアをフィールドとした低学年教育プログラムや海外企業インターンシップ活

動のサポートなど、海外での研究・教育・人材育成・産学連携の促進を行っているっており、昨今では、本学の国際戦略のもとマレーシアだけに留まらず、東南アジアにも目を向けた展開を行っています。

本学とUPMでは、MSSC設立当初から両校間の研究や人材交流を目的に、毎年交互に九州工大・UPM国際合同シンポジウムSAES (INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON APPLIED ENGINEERING AND SCIENCES)を行っています。2013年に第1回SAES（開催地：UPM）を開催して以来、毎年交互に開催しており、今年度は第5回SAES（開催地：UPM）を2017年11月に開催しました。

開催当初は、UPMとの交流が盛んな生命体工学研究科からの参加が多かったのですが、徐々に他キャンパスからの参加へ広がってきました。2014年150名、2015年141名、

2016年150名、2017年には200名を超える参加者数となりました。

SAESは、両校の研究活動をアピールする場だけでなく、日本やマレーシアの高校生との交流、マレーシア以外からの研究者の招聘、企業との国際連携の促進、また九州工大・UPMとの共同研究プロジェクトの報告会など、最近では多岐にわたる本学の活動をアピールする場となつ



写真1 山口副学長より本学の紹介



写真2 卒業後の活動を紹介

ており、人材交流の面でも重要な役割を担っています。

卒業後には、母国へ戻って大学や企業などで第一線の活躍をしている外国人卒業生が本学には大勢います。しかし、卒業後に連絡が途切れて進路不明になっている留学生も多数います。幸いにも本学のマレーシア出身者たちは、SNSを利用したグループで連絡を取り合っていることを知りました。母国に帰国した卒業生との繋がりには、本学が持っている国際連携の礎でもあります。残念ながら、これまでにマレーシ



写真3 同窓会参加者の集合写真

アで本学が主催する同窓会が開かれたことはありませんでした。そこで、MSSC5周年と第5回SAESのマレーシア開催を機に、卒業生同士で連絡を取り合ってもらい、本学の教員が多く訪れるSAESで同窓会を開催することにしました。

今回の同窓会には、本学からSA

ESに参加して下さっている先生方をはじめ、尾家学長、早瀬理事、鶴田理事、吉田局長、山口副学長や花本生命体工学研究科長、梶原情報工學部長、そして、国際課や学務課、研究協力課からも複数名参加してくださいました。マレーシア出身の卒業生は、短い連絡期間にもかかわらず、UPM周辺だけでなく、遠方からも含めて14名の卒業生が参加してくださいました。

同窓会では、鶴田理事の挨拶で始まり、山口国際担当副学長から昨今の九州工大の活動について紹介をしていただきました(写真1)。その後、それぞれ卒業生から出身研究室と卒業後から現在までの活躍を紹介してもらいました(写真2)。意外だったのは、出身キャンパスに偏りがなく、各キャンパス出身の卒業生が参加しており、本学の国際性を見て取れる一面でした。また、今回参加して下さった卒業生の多くは、マレーシア政府の奨学金で留学していた方々が多いようでした。参加者は、マレーシア国内の大学教員や日本の企業と繋がりのある仕事をされています。ほぼ全員が、共同研究

やビジネスで日本と未だに何らかの繋がりを持っています。また、本学の教員と共同研究をしたいとアピールして下さる卒業生もいました。本学は工業大学ではありますが、マレーシアの国情を反映して、女性の卒業生も多く参加してくださいました(写真3)。

学生生活の思い出や現在の研究などを話してもらっていると時間もだんだん無くなってしまい、終盤ではスライドを使う間もないほど短時間で紹介していただきました。この場を借りてお詫び申し上げます。最後は、尾家学長より本学の教員と卒業生との共同研究のための助成金制度や本学教員と海外の大学(現在はUPMと台湾科学技術大学の二校)との共同研究支援制度について説明がなされ、今後も卒業生との繋がりを大切にしていく旨が伝えられました。残念ながら今回の同窓会では、卒業生の活躍を聞くだけで時間が過ぎてしまいました。同窓会終了後には、UPMの近くにあるホテルにて懇親会を開きました。懇親会では、同窓会ではできなかった卒業生と教員との交流を行いました。殆どの男



写真4 懇親会にて卒業生との交流(その1)

性参加者は懇親会に出席してくれましたが、女性は、子供の世話など家庭のため懇親会には出席できないということでした。今後、同窓会を企画する上で時間帯も考慮する必要があります。ありそうです。

交流会では、4つのテーブルに先生方と卒業生が交互に座るようにして、話をしやすいようにしました。とはいえ、参加された先生方も卒業生に負けず劣らず、積極的に交流をして下さり、すぐに席を入れ替わったり、立ち話をするような形に

## 交流のひろば

なり、交流を深めていました（写真4、5）。2時間ほどの懇親会もあっという間に時間が過ぎ去ってしまいました。最後に、尾家学長の挨拶と卒業生代表としてマレーシア科学大学（USM）の Shahrel Azmin Sundi 先生の挨拶で閉会しました。

今回、初めて大学が主導したマレーシア同窓会を開催して思ったことは、本学は極端に偏ることなく各キャンパスから卒業生を送り出ししており、卒業生は、卒業後も引き続き日本と交流しながら、あるいは、交流を希望する人が多いということでした。今回参加していただいた卒業生は、企業にお勤めの方だけでなく、マレーシアプトラ大学、マレーシア科学大学、マレーシア工科大学、マレーシア国民大学、マラヤ工科大学、マレーシアサラワク大学、マレーシアパハン大学、スルタン ザイナル アビディン大学、国民防衛大学、クアランプール大学と大学教員になられている方が多くいました。今回の同窓会は、平日の昼間に行われたこともあり、大学教員の参加者が多かったようです。しかし、休日などを利用して同窓会を開催すれば、企

業勤めの方達をはじめとして、もっと多くの卒業生が参加できます。

多くの海外留学生は卒業後、母国に戻って活躍をしています。同郷で集まり、縁を深める方たちも多いと思います。しかし、多くの留学生は母校と何かしら縁を繋いでいたが、そのきっかけを見出せないようです。卒業してからいぶん年数を経ている、本学と繋がりを持つきっかけを作るのが難しいと言われている人も多くいました。



写真5 懇親会にて卒業生との交流（その2）

外国人卒業生や留学生の存在は、本学のグローバル化にとって貴重な財産です。マレーシアだけでなく、これまで本学の教員が培ってきたこの貴重な財産を他の地域でも広げていくため、同窓会のような繋がりを作るきっかけ作りが、本学のグローバル化や新しい連携作りに重要だと思います。

今後は、在校生の教育や研究のグローバル化をサポートするだけでなく、海外で活躍されている卒業生と本学を繋げていき、新しい連携を生み出すきっかけ作りを行っていきたいと思います。会報をご覧の皆様にもMSSCを活用していただいて、海外の卒業生との繋がりを作っていただき、国際的な産学官交流の輪が広がっていくことを期待しています。